《研究ノート》

伊勢志摩サミットの警備態勢と観光振興
――現地調査と新聞報道の分析をもとに――

杉　山　和　明

The Security Posture and Tourism Promotion Concerning the G7 Ise-Shima Summit:
A Case Study Based on the Field Survey and an Analysis of Newspaper Reports

KAZUAKI　SUGIYAMA

キーワード
伊勢志摩サミット（G7 Ise-Shima Summit），セキュリティ（security），観光（tourism），リトリート方式（retreat method），東京五輪・パラリンピック（Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games）

Ⅰ　はじめに

オリンピックやサッカーワールドカップ，万博，サミットといった，メガイベントとそれに伴う大規模都市開発，観光振興，そして，セキュリティ面での新たな対策の導入は，近年これまでになく密接な関係にあることが明らかにされてきた（たとえば，Armstrong et al. 2016; Bennett and Haggerty 2011; Boykoff 2014; Gold and Gold 2016; Whelan 2014）。

こうした関係性の一端を明らかにする試みとして，荒又ほか（2018）は，2020年東京五輪・パラリンピックがグローバル化に伴う脱工業化に合わせた都市改造の契機となることを念頭に置きつつ，ソウル五輪，長野五輪，ロンドン五輪，伊勢志摩サミットの開催地に関する現地調査報告をもとに，今後検討が必要な地理学的課題として以下の三つを提起している。

1）東京における1964年と2020年の会場計画の総合的な相違が経済発展段階の違いによるものであることを考慮し，決定過程について具体的に調査し，長期的な視点で不利益を受けるのが誰であるかを検討すること[1)]

2）イベント実施や施設維持の財政負担について精査し，今なぜ首都が選択されたのかを考察すること

3）経済情勢について開催都市の細かな差異こそが重要であることを認識し，セキュリティ面での対策など，異なる状況に対して同様のレトリックが用いられる問題を検討すること

これらのなかでも筆者の関心は，3）に関わる課題である，メガイベントによる観光振興に付随するセキュリティに関する施策や社会の動向にある（Sugiyama 2018）。同様の関心は日本国内においても都市社会学，スポーツ社会学，メディア論などを中心にさまざまな論考のなかで共有されている。たとえば，東京オリンピックに向けた社会学的課題を整理した阿部（2016）は，大会の準備過程で強化されていくセキュリティ面での施策を批判的に検討することを重要な課題のひとつとしているし，山本（2017）も，オリンピックなどの国家的祝祭に乗じた治安維持対策の刷新を，惨事便乗型資本主義（N・クライン）や祝賀資本主義の概念を用いて簡潔に解説している。祝賀資本主義によるセキュリティ強化の過程は，鈴木（2015）によるBoykoff（2014）の紹介によっても広く知られるところである。筆者なりに論点をまとめれ

ば，例外状態をもたらす巨大な祝祭型イベントの開催誘致によってセキュリティ方面の対策の抜本的な更新が可能になるとともに，例外状態に対処するために準備された監視技術が祝祭後の日常にも適用され続ける社会的・空間的な過程を精査することが研究上の焦点となっていると考えられるのである。

これら先行研究の着眼点をみても，2020年東京五輪・パラリンピックへの期待と不安の入り交じる報道が続くなか，観光振興とセキュリティに関わるテーマは多くの課題のなかでも注目に値するものとして位置づけられるだろう。この点において，2016年５月に開催された伊勢志摩サミットは，「ラグビー W杯・東京五輪への試金石」（2016年５月19日付朝日新聞朝刊29頁）と形容されたように，東京オリンピックを見据えた観光とセキュリティの関連性を知るうえで有益な示唆を与えてくれるイベントだったと考えられる。本稿では，伊勢志摩サミット開催期間中の警備態勢とその後の取り組みおよび観光活動の概況を把握する目的で2016年８月22日（月）～25日（木）にかけて行った現地での調査内容について，新聞等の報道記事を交えつつ報告することを主題に据える。すなわち，荒又ほか（2018: 288-292）において報告した，G7サミット後の伊勢志摩地域における観光状況とセキュリティの関係性について，詳細な資料をもとに敷衍することを目指す。

構成は以下の通りである。Ⅱでは，これまでのところ発表された伊勢志摩サミットに関する研究報告の傾向を把握し，Ⅲでリトリート方式によるサミット開催に内在するセキュリティと観光振興の関係性を確認する。Ⅳでは，現地調査の内容を新聞記事の説明を交えて報告する。そしてⅤで，これまでの知見をもとに問題点を指摘し結論を述べる。

Ⅱ　伊勢志摩サミットに関する研究報告の傾向

伊勢志摩サミットに関する学術・ジャーナリズムによる各種報告はすでに数多くなされている。たとえば，CiNii（NII学術情報ナビゲータ）の論文検索で「伊勢志摩サミット」を検索すると，サミットから約２年４ヶ月後の2018年９月25日時点で149本に上る。それらを概観することによって，これまでのところどのようなテーマのもと伊勢志摩サミットが論じられてきたのかを把握することができる。ここでは，個別の論考を掘り下げて紹介するのではなく，代表的な特集および個別論文のテーマやキーワードを列挙することで全体的傾向を指摘しておきたい。便宜的に，①「セキュリティと警備」，②「観光振興」，③「サミットの中心課題」，④「マスメディア」，⑤「総括」，⑥「思惑・内幕・暴露」の五つのテーマに大別して記述する。

サミットの前後を通じてもっとも多くの報告は，広義の①「セキュリティと警備」に関するものであり各誌で特集が組まれた。『警察学論集』69巻１号（2016）では，特集「警察政策フォーラム 変容する国際テロ情勢への対応：『伊勢志摩サミット』に向けて」が，サミット後には，『治安フォーラム』23巻１号（2017）で「特集 伊勢志摩サミットと治安」や，『月刊交通』47巻８号（2016）で陸上・海上の交通対策についての評価として特集「伊勢志摩サミット及び関係閣僚会合における交通対策」が組まれている。個別の論文では，反グローバリズム運動，国内過激派対策，過激派動向，小型無人機（ドローン）の条例規制，沖縄サミットとの比較，洞爺湖サミットとの比較（反グローバリズム運動），沖縄サミットおよび洞爺湖サミットの比較，テロ，サイバー空間，東京五輪（2020年オリンピック・パラリンピック）といったテーマが取り上げられている。なお，CiNiiではヒットしないものの，橋爪（2016）は，新聞記事分析や景観観察，聞き取りから都道府県警の配置状況など具体的な警備態勢の時空間展開を明らかにした，地理学分野における貴重な報告といえる。

一方，サミットと連動した②「観光振興」については，特集を組んだ雑誌は見当たらなかっ

たが，個別論文では多数取り上げられており，地方創生，地域性の創出（アコヤ貝殻の景観舗装），「伝統と革新」，経済効果，ポスト・サミットの取り組み，近鉄グループなどの企業の取り組みといったテーマが論じられている。

③「サミットの中心課題」に言及したものとして，サミットの意義，サミットで日本の果たすべき役割，「グローバルヘルス」，気候変動，世界のテロ対策が，外交との関連では，安部首相の手腕評価，オバマ大統領，サミット後には，サミットと中国が論じられている。

また，サミットの様子を伝えた④「マスメディア」に関する報告もなされている。『放送技術』69巻8号（2016）では特集「『伊勢志摩サミット』の中継対応」，『新聞研究』781号（2016）では特集「伊勢志摩サミットと新聞報道」が組まれ，サミット会場での活躍，サミット報道，テレビ中継技術，国際メディアセンター アネックスが主題となっている。

⑤「総括」に関しては，たとえば，伊勢志摩サミット三重県民会議事務局（2017a, b）のように，統合的にサミットの内実を論じ，MICE機能やさまざまなレガシーの今後といったポストサミットを展望する論考がみられた。

その他，サミットに関する⑥「思惑・内幕・暴露」として，伊勢志摩の歴史，憂慮すべき売春島，安倍首相の思惑，アベノミクスの失敗隠し，「報じられない内幕」などが取り上げられていた。

これらの論考以外にも，新聞・雑誌等には相当数の論説が掲載されている。ラグビー・ワールドカップ2019，東京五輪・パラリンピック，そして，開催が決まった大阪万博といったメガイベントとの関連性が取り上げられている。

他方，新聞記事については，G-Searchデータベースサービスを用いてタイトルか本文に「伊勢志摩サミット」が含まれる記事を検索したところ，2018年9月25日現在，朝日新聞1,987件，読売新聞2,501件，毎日新聞2,337件，産経新聞1,368件の記事が見つかった。また，日経テレコンを用いて日本経済新聞の記事を検索したところ，869件の記事が見つかった。5誌総計9,062件となり，伊勢志摩サミットが新聞メディア上で注目されたイベントだったことを見て取ることができる。これらの報道の差異を検討することで，さまざまな局面からサミットを振り返ることができるといえるが，各紙で類似した記述も多くみられることから，無用に煩雑になることを避けるため，本稿では主に朝日新聞と日本経済新聞の記事を用いて考察することにしたい。

Ⅲ　サミットの概況とリトリート方式

1．伊勢志摩サミットの概況

これまで日本国内で開催されたサミットは，1979年の第5回，1986年の第12回，1993年の第19回までが首都東京で開催されたのに対して，2000年の第26回（九州・沖縄サミット）は沖縄県名護市，2008年の第34回（洞爺湖サミット）は北海道洞爺湖町，そして，2016年の第42回（伊勢志摩サミット）は伊勢市というように，2000年代以降いずれも地方で開催されるようになっている[2)]。

今回のサミットで議論された主な課題は，外務省の広報[3)]によると，⑴G7の価値・結束，世界経済，⑵貿易，⑶政治・外交，⑷気候変動，エネルギーの各領域である。特色として挙げられるのは，⑴G7の価値・結束，世界経済で，「G7伊勢志摩経済イニシアティブ」が提唱され，「世界経済，貿易，インフラ，保健，女性，サイバー，腐敗，といった具体的な分野におけるG7としての行動をとりまとめ，『G7伊勢志摩経済イニシアティブ』に合意。G7が世界経済を牽引するとの明確な姿勢を発信」することが目指されたことであろう。また，⑶政治・外交において，ア テロ・暴力的過激主義対策，イ 難民問題，ウ 北朝鮮，エ ロシア・ウクライナ，オ 海洋安全保障が挙げられ，「テロ・暴力的過激主義対策」が最重要課題とされたことも重要な点として指摘できる。

「テロ・暴力的過激主義対策」についていえ

ば，サミットそのものが「テロ・暴力的過激主義」の標的にされるおそれが常にあり，主要先進国における直近の相次ぐテロ事件の影響も重なって，今回のサミットでは開催地でのセキュリティ確保がより一層重要な課題となっていた。たとえば，「“史上最高レベル”の警備」[4)]といったセンセーショナルな報道のように，警備態勢の様子が脚光を浴びたことも大きな特徴といえるだろう。新聞報道による具体的な警備態勢の描写については次章で詳しく見ていくことにしたい。

2．リトリート方式によるサミット開催

サミット開催地のセキュリティと観光との関係を考える際，先に述べたように2000年以降に定着した地方でのサミット開催の動きを踏まえる必要がある。

2001年のアメリカ同時多発テロ事件発生を受けて，2002年のカナナスキスサミット以降，各国のサミット会場はセキュリティを考慮し首都から離れた遠隔地に設定されるようになったとされ，以後，「リトリート方式（隠れ家方式）」が定着している[5)]。この方式では，警備のしやすさを第一としつつ，首脳陣にふさわしい宿泊施設を兼ね備えた遠隔地での開催と，「開催地の利益」への配慮とが対になっている（高瀬 2015: 39-43）。

開催地のセキュリティを確保しながら，リゾート性を全面に打ち出す「リトリート方式」は，伊勢志摩でも目指す方向とされていた。「伊勢志摩サミット 三重県民会議」によれば，「近年のサミットは，セキュリティ面とリゾート性を考慮して，大都市圏以外の観光地等で開催することが主流」とし，2008年の北海道洞爺湖サミットに続き，伊勢志摩サミットも「セキュリティ面とリゾート性」を両立する「リトリート方式」を採用した開催であったと述べられている[6)]。

この「リゾート性」の強調は，必然的に観光振興と経済効果への期待に結びつく。各種メディアの報道でも，伊勢志摩サミット開催にちなんだ観光振興と経済効果については開催前から大きな注目を集めていた。たとえば，2015年６月22日付日本経済新聞朝刊 29頁「伊勢志摩，特需に期待，2016サミットへ動く，食や技術，世界へ発信」では，主会場となる改装中の志摩観光ホテル ザ クラシックや賢島の写真と共に，三重県知事，近鉄グループホールディングス，志摩市観光協会，志摩市商工会，三井不動産，真珠業者などによるサミットに狙いを定めた取り組みを詳しく紹介している。インバウンドを期待した知事の「サミットは世界でのステージを上げる千載一遇のチャンス」の言葉を受け，観光振興，地域産業のアピールなどを通じた特需への大きな期待を読み取ることができる。さらに，伊勢神宮へ訪れた国外の国家元首が，これまでに1975年の英国女王，2011年のドイツ大統領の２人しかいないことから，「サミットでは各国の首脳が訪問するかが注目される」と報じている。

このように，観光への大きな関心は，セキュリティへの着目と両輪の輪をなしてリトリート方式そのものに内在しており，セキュリティ分野の対策としての遠隔地開催が，当該地域の観光推進という機運を生んできたといえるだろう。

Ⅳ　現地調査と新聞報道

本章では，主要な訪問先（図１，図２，図３）で行った聞き取り内容を，新聞記事の報道を交えながら，時間軸に従って記述していく。主な訪問先を列挙すると，2016年８月22日（月）に伊勢シティホテル，伊勢市観光案内所，伊勢神宮（外宮），近鉄宇治山田駅周辺の飲食店，23日（火）に皇學館大学，イオン伊勢店周辺，志摩観光ホテル，24日（水）に志摩観光ホテル，志摩マリンランド，（株）出口真珠，そして，25日（木）に二見興玉神社，三重県営サンアリーナ，神明神社，伊勢神宮（内宮）である。これらの場所において，実地見聞ならびに調査目的を告げた聞き取り[7)]を行い，サミット前後の警備と観光活動の状況について有益な知

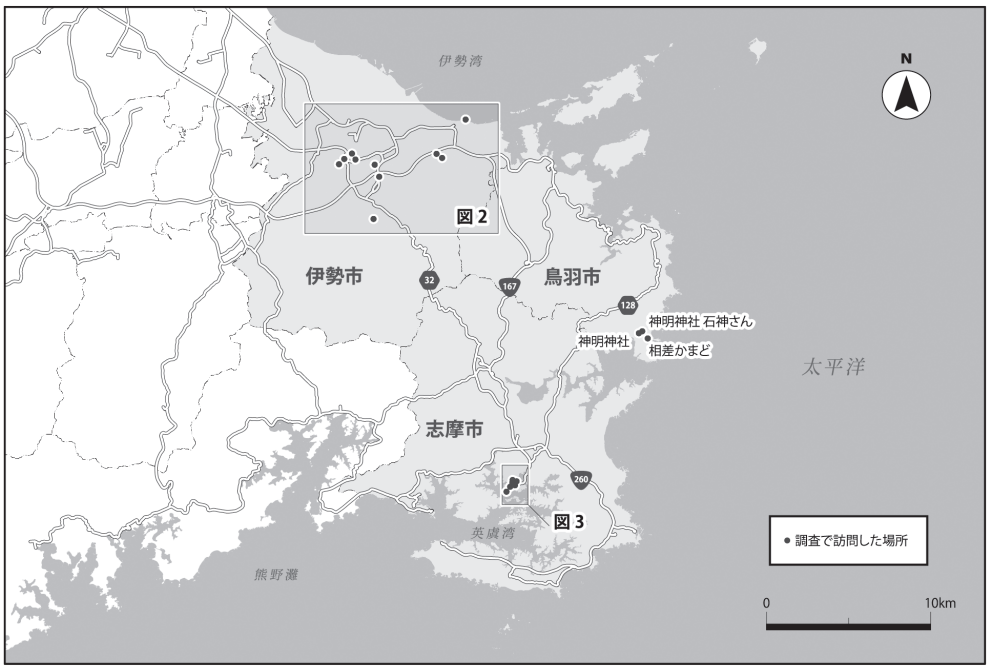

図 1　調査対象地域

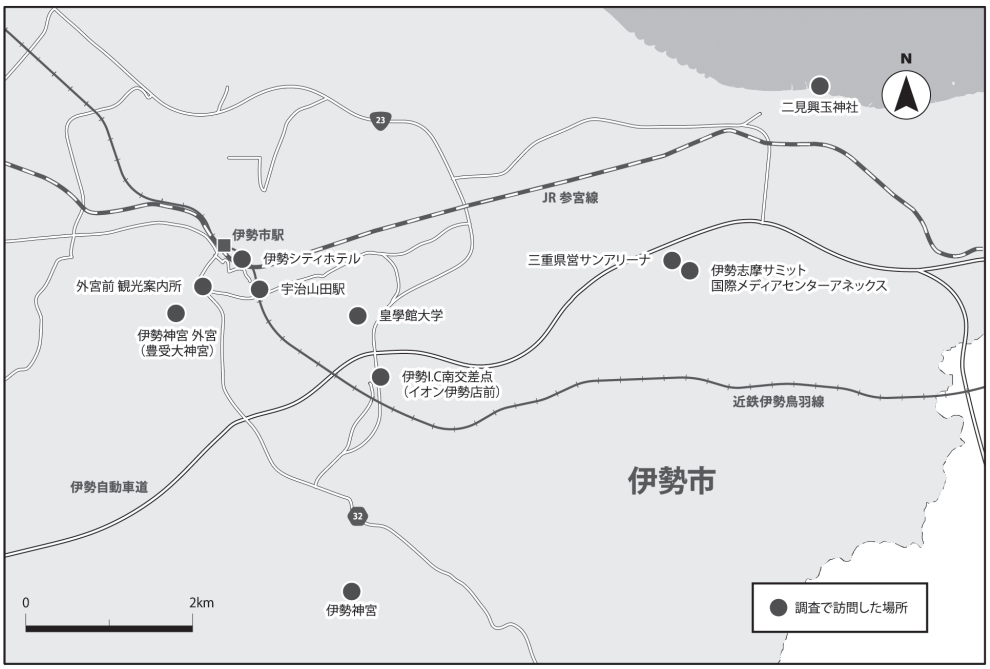

図 2　伊勢市内の調査地

図３　賢島周辺の調査地

見を得ることができた。

１．伊勢市駅周辺の様子

８月22日（月）にJR伊勢市駅に到着後，伊勢シティホテルに荷物を置き市内散策に出かけた。伊勢市観光案内所を訪れ，スタッフにサミット前後の観光状況を尋ねると，「サミット期間前から激減していたものの，サミット後はすぐに観光客数は回復している印象」「外宮周辺ではサミットにちなんだ観光名勝は思い当たらない」とのことであった。

同日19時過ぎに，近鉄宇治山田駅周辺の飲食店を訪れ，居合わせた客や店員数名（40～70代）に同様の質問をしてみたが，やはり，「サミット以降は通常と変わらず，観光への影響ということでは伊勢市にメリットはない」と語っていた[8)]。ただ，サミット期間中の警備については，「これまで体験したことのない警備人員，警官であふれかえっていた」点を強調しており，住民にとって鮮烈な印象を与えた出来事だったことを窺い知ることができた。

翌日８月23日（火）の11～12時には，皇學館大学関係者に当時の様子について語ってもらった。「サミット前には，近鉄宇治山田駅でかなりの人数の警官を見かけ，物々しい雰囲気」であり，伊勢市駅，宇治山田駅を利用する学生がいることや，大学前の道路も封鎖の可能性があったことも考慮し，大学は２日間休講になったという。サミット終了後には，開催中とは打って変わって大学周辺も含め市内は以前と何の変わりもない状況になっているとのことであった。

サミット開催中の教育機関の休校については，2016年５月27日付日本経済新聞（名古屋）朝刊21頁「歓迎ムードその裏で，三重，交通規制で休校相次ぐ，東京，厳戒に驚く生徒も（伊勢志摩サミット）」も，「サミット会場に近い志摩市のある県立高校は25日から３日間の休校を決めた。生徒の８割が電車とバスで通学。校長は『交通規制で生徒が一斉に登校することは難しい』と話す。伊勢志摩地域では小中高と特別支援学校の計17校が25～27日まで休校。津市などの中高と大学の計13校も26～27日を休校とした」と報じており，聞き取り内容と同じく交通規制が広く及んでいた様子が伝わってくる。

校内での聞き取りを終えてそのまま関係者の案内でサミット首脳陣が賢島から伊勢神宮内宮への参詣の際に通過した道路を確認するため伊勢インター付近に向かったところ，イオン伊勢店前の伊勢IC南交差点付近において，マンホール蓋に描かれた白線や封鎖のために使用したシールといったサミット警備の痕跡を見つけることができた（写真１）。

２．志摩観光ホテルの状況と警備態勢に関する新聞報道

１）ホテルスタッフの語り

23日の午後，近鉄伊勢市駅13時42分発の特急列車に乗り１時間ほどで賢島駅に到着した（写真２）。駅から続く真新しい坂道を30mほど登

り前方にある伊勢マリンパーク前を左折してほどなく，「志摩観光ホテル ザ クラシック」の真新しい外観が目に入った。

平日ではあったがフロントロビーは客で混み合っており，しばし待たされた後，チェックインを済ませた。フロント対応の男性スタッフにそのまま部屋まで荷物を運んでもらった際，サミット前後の状況について15時ぐらいから５分ほど聞き取りを行うことができた。サミットに先立ち関東の系列ホテルから応援にかけつけたというスタッフによれば，サミット前の様子は以下のようであったという。

> サミット一週間前からセキュリティチェックが厳しくなり立ち入り制限が行われました。賢島西側の橋（賢島大橋）が封鎖され，もう一方の橋（賢島橋）で島内の出入りには手荷物検査込みのセキュリティチェックがありました。賢島島民についてもID管理が行われました。
>
> （サミット中は）オバマ大統領も含めアメリカ関係者が宿泊した「ザ クラシック」の警備は非常に厳重で，ホテル側スタッフで出入りできるのはほんの一握りだけでした。周囲から出入りできないようにホテル周囲に柵を巡らせてありましたが，それらは最終日（2016年５月27日）の18時ぐらいに最後のお客様がチェックアウト後すぐ撤去され，警備も通常に戻りました。

他方，志摩観光ホテルのリニューアルについては，「サミット会場に決定してからリノベーションを行い10ヶ月ほど閉鎖していました。サミットに際して初めて使用され，一般客を迎えたのはサミット後のリニューアルオープン以降のことです。全面的に改装した部屋もあり，壁紙，絨毯なども交換し，エントランスロビーはすべて改装，正面左手にあった階段も撤去され，かつての面影は天井の梁のみ」であるという。筆者が宿泊した部屋も，バストイレは従来のものであったが，それ以外は真新しいもので

写真１　マンホール蓋にみられる警備の痕跡

（2016年８月23日筆者撮影）

写真２　賢島駅プラットホーム

（2016年８月23日筆者撮影）

写真３　ザ ベイスイート屋上のサミット記念撮影台

（2016年８月23日筆者撮影）

あった。上述した坂道についても，リニューアルに際して駅からホテルまでの道がすべて打ち直しされたことを強調していた。リノベーションの際には，ロビーなどにセキュリティカメラ

を多数増設したことも重要なポイントとして語ってもらった。

さらに，19時頃，日中聞き取りしたスタッフと新館ザ ベイスイートの５階の「ゲストラウンジ」[11]で偶然出会い，10分ほど聞き取りを行うことができた。その際，スタッフ数について，「サミット時200人態勢で，現在130人，30名は各地からの助っ人。正規スタッフは100名」であること，また，サミット中，５階のラウンジは，防弾ガラスで覆われ，床を上げてコード類を設置し，レストランは通訳の控え室となり，ラウンジ横の屋上庭園には警官を配置していたことを教えてもらった。この屋上庭園の先には，サミットを紹介したパンフレットの表紙[12]にも使用された首脳たちが記念撮影をした台（写真３）が残されており，この日の夕刻にも多数の宿泊客が撮影を楽しんでいた。

刷新された志摩観光ホテル[9]の活況は報道からも知ることができる。2016年６月１日付日本経済新聞朝刊 15頁「サミット効果で宿泊予約殺到，志摩観光ホテル」では，「主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）でメーン会場となった志摩観光ホテル（三重県志摩市）の宿泊予約が急増している。夕食会などで首脳らに振る舞われたメニューに問い合わせが相次いでおり，定番メニューにすることも検討している」[10]と志摩観光ホテルの活況を伝えるとともに，「伊勢志摩地域の他のホテルや旅館も６月の宿泊予約が前年比で２～５割増えており，夏場のハイシーズンに向け本格的な『サミット景気』を期待している」と，サミット後の経済波及効果を報じている。

２）館内見学ツアー

８月24日（水）９～10時には宿泊客限定の「館内見学ツアー」[13]に参加した。室内での紹介内容（写真4）の通り，ツアーにはサミットの様子の説明が組み込まれており，出立前の集合場所ロビーでも，同様の案内（写真５）を確認できた。

この館内見学ツアーの様子について，2016年９月20日付日本経済新聞朝刊 17頁「三重経済特集――伝統と革新，三重の挑戦，ポスト・サミットの観光，食・特産品で新たな飛躍」は以下のように記述している。

「こちらが尾鷲ヒノキを使ったサミット用の

写真４　ザ クラシック５階客室内の館内見学ツアー案内

（2016年８月23日筆者撮影）

写真５　ザ クラブ２階ロビーの館内見学ツアー案内

（2016年８月23日筆者撮影）

テーブルでございます。まさにこの場所で，世界経済について話し合いがされました」サミット会場となった志摩市賢島の志摩観光ホテル。通常営業を再開した６月７日から毎日，サミットの足跡を巡る館内見学ツアーが開かれ，宿泊客の人気を集めている。各国首脳が記念撮影した庭園を歩き，同じアングルでカメラを構える客が今も絶えない。

実際，筆者の観察でも，首脳陣たちの記念撮影場所，会議場，食事会場，宿泊した部屋などの諸施設，ならびにサミット中のエピソードが，すべて観光資源となっていることが確認できた[14)]。

ツアーではまず集合場所ホールで簡単な説明を受け，そこから移動した直後，案内スタッフから，階段脇の消化器（写真６）を指しつつ，「消化器には爆発物などにすり替えられることを防ぐため，個別に番号が付けられ管理されていました。番号が残っているのが確認できる」との説明があった。実際には何の変哲もないラベルなのだが，事前のツアーアナウンスで当時の厳戒態勢に興味をかきたてられていたツアー参加者たち（筆者も含む）からは，小さな感嘆の声が上がった。

こうして始まったツアー（写真７，写真８）のあいだ繰り返しサミット期間中の様子が語られることになるのだが，たとえば，日本側の警備状況については以下のように説明されていた。

サミット警備に動員された警察官は２万人いて，賢島は特に多数の警官を配備していました。賢島沖の英虞湾には，海上保安庁が待機し，伊勢湾には海上自衛隊のイージス艦も待機していました。

（ホテル関係者の状況については）サミット開催中は300人態勢のスタッフ（普段は100人），現在は130人態勢です。賢島を出入りするためのカードと，ホテルを出入りするためのカードの合計二枚のID

写真６　ザ クラブ２階ロビーの番号付き消火器

（2016年８月23日筆者撮影）

写真７　写真撮影を楽しむツアー参加者１

（2016年８月24日筆者撮影）

写真８　写真撮影を楽しむツアー参加者２

（2016年８月24日筆者撮影）

写真９　ザ クラシック屋上の塔屋

（2016年８月24日筆者撮影）

カードを使用していました。

さらに，アメリカ側のセキュリティに対する配慮が突出していたことが強調されていた。

> オバマ大統領が宿泊した６階寝室は防弾ガラスで覆っていました。アメリカ関係者は700人おり，関係国中で最大規模の人員でした。車両はすべて自前で調達し，料理の用意の際にも関係者立ち会いのもと厳重に警備して……ザ クラシック屋上（塔屋）（写真９）にはアメリカ側のスナイパーが待機していて，館内では一人だけ知らされていただけで，他には存在が伏せられていました[15]。

ただし，館内見学ツアーで語られた主な内容は，前日にスタッフが語ってくれた内容と重複している部分も多いことから，サミット開催時の状況を語ること自体は秘匿されているわけではなく，むしろ厳戒態勢下という非日常的状況についての語りが観光資源として積極的に活用されているといえるだろう。

３）賢島周辺のセキュリティに関する報道

以上の聞き取りから明らかになった当時の状況は，実際のところ多くの新聞メディアにおいても頻繁に報道され，段階を追って警備が強化されていく様子が詳しく述べられていた。

たとえば，2016年４月26日付朝日新聞（名古屋）朝刊27頁「警備の強化，加速　伊勢志摩サミットあと１カ月」は，サミット開幕一月前時点における中部空港ならびに伊勢志摩地域の警備の様子と，今後の強化予定を解説している。３段階で警戒が引き上げられる中部空港について述べた後，「会場ホテル　周囲２キロ，フェンス」と題した小見出しで，三重県外から伊勢志摩地域に動員された警官たちの警備の様子や，「テロ対策として志摩観光ホテルの周囲を約２キロのフェンスで囲う工事」の開始，そして，３月下旬から始まった伊勢神宮周辺の警備についても伝えている。さらに，「賢島　住民出入りにIDカード」の小見出しで賢島の状況を以下のように詳しく伝えている。

> 警備強化は日常生活の一時的な束縛にもつながる。
>
> 開幕５日前には，サミット関係者以外の主会場・賢島への立ち入りは，外務省発行のIDカードを持った住民らに限られる。島の手前に設けたチェックポイントで保安検査を行い，出入りを徹底管理する。その期間を同省は「少なくとも５月21～28日」と見込む。
>
> 公共交通機関も止まる。近鉄志摩線と三重交通バスは鵜方―賢島間を同21日始発から28日午前７時まで運休。鵜方―志摩神明―賢島駅間をシャトルバスが代行運行するが，賢島まで乗るならIDカードが必要だ。英虞（あご）湾にある間崎島と賢島を結ぶ定期船の発着場所も賢島港から島外のホテル「志摩地中海村」に移す。
>
> 周辺海域や空域にも規制がかかる。第４管区海上保安本部は同21～28日の賢島周辺の航行自粛を要請。航行船舶に立ち入り検査する場合もある。上空の飛行制限もあり，県警は空からの事態に備えてドローン（小型無人飛行機）も導入。海保は中部空港の周辺海域でも同期間中に，船舶の航行

や飛行ルート下での停泊自粛を呼びかけている。

このようなサミットの主要会場である志摩観光ホテルと賢島の警備の概況を詳しく伝える報道は，サミット開催日が迫るごとに増加していくことになる。

2016年５月14日付日本経済新聞（名古屋）夕刊36頁「賢島住民らにID配布，21日から出入り規制（伊勢志摩サミット）」でも，「約100人の住民と，勤務先や取引先があって出入りする必要があると認められた約200人」へ，14日から志摩市を通じて外務省発行のIDカードが配布され始めたことが伝えられている。

2016年５月19日付朝日新聞（名古屋）朝刊29頁「厳戒の賢島　不審船の発砲，想定し訓練　伊勢志摩サミットあと１週間」では，「三重県警の警備艇と海上保安庁のゴムボート」による不審船の鎮圧訓練の様子や，「賢島の警備を担う警察官は現時点で数百人規模で，100人足らずの島民よりも多い。伊勢志摩地域には全国から１万人以上が派遣されており，開幕前までにさらに増員される見通し」であり，「すでに島内各所に警察官がいて，視界に入らないことはない」という緊迫した現場の状況を伝えている。さらに，政府・警察高官によるサミット警備の位置づけについて「ラグビーW杯・東京五輪への試金石」との小見出しのもと以下のように報じている。

「万が一の時でも自衛隊を使うまでもなく，警察部隊で十分対処できる」

サミットの警備や危機管理を担う西村泰彦・内閣危機管理監は今月10日，都内で朝日新聞の取材に対し，日本の警察力に自信を見せた。安倍晋三首相に直接「しっかり頼む」と言われているが，気負いはない。

「やるべきことをきっちりやってもらえば，サミットを成功に導ける」

見据えるのはサミット後だ。熊本地震の被災地対応が続く中，サミット閉幕日の27日にはオバマ米大統領の広島訪問もある。人員を分散しながらの広域警備は，2019年のラグビー・ワールドカップ，翌20年の東京五輪・パラリンピックなど「大きな舞台に向けた試金石」と位置づける。

今回，政府が重点を置くのが，⑴過激派組織「イスラム国」（IS）など国際テロへの対応⑵国際的ハッカー集団「アノニマス」などに対するサイバー・セキュリティー⑶ドローン攻撃など新形態の脅威への対処――の三つ。過去の日本開催のサミットではなかったことで，金高雅仁・警察庁長官は13日，「警備に聖域はないとの大原則に従い，徹底した詰めをお願いしたい」と，前線配置した警官隊に指示した。

2016年５月21日付日本経済新聞（名古屋）夕刊36頁「賢島，封鎖，列車・バス運休，周辺海域の航行制限，住民『安全のためなら…』（伊勢志摩サミット）」では，21日に行われた警察による賢島大橋封鎖の様子をとらえた写真や住民の声とともに，賢島が「厳戒態勢に突入」した状況を報じている。この時期になると，こうした厳戒態勢は伊勢志摩地域のみならず，空間スケールを超えて広がっていった。

たとえば，2016年５月24日付朝日新聞（名古屋）朝刊31頁「自粛 パチンコ新台入れ替え・原発廃炉作業…伊勢志摩サミットあと２日」は，東海道新幹線でのコインロッカーの預け入れ停止，つくばエクスプレスでのゴミ箱撤去やサニタリーボックスの撤去とそれへのネット上での批判について報じている。そして，海上自衛隊の艦艇７隻がテロ警戒任務にあたるため23日昼に名古屋港に入港したことや，25日から27日にかけて予定されている高速道路，一般道，小中高（休校），中部空港，伊勢神宮，JRなどで行われる規制・自粛の詳細についても伝えている。2016年５月25日付朝日新聞夕刊11頁「サミットへ，首都も厳戒態勢」でも，東京タワーの事例を写真付きで挙げつつソフトターゲットの警備状況を報じるなかで，「警視庁はサミッ

ト期間中，都内の警備に最大１万９千人を動員。警察庁によると，全国の約3,500カ所のソフトターゲットで最大約７万人の警察官が投入される」との情報を伝えている。

３．伊勢から志摩，そして再び伊勢へ

１）伊勢シティホテル

８月25日（木）10時10頃，伊勢シティホテルを出立する前に，女性スタッフに聞き取りを行うことができ，サミット期間中のホテル利用状況については，「ホテルによって違いますが，各地の警察が部屋を押さえて４日ほど連泊していました。報道の人たちも宿泊していて，このホテルからもプレスセンターに通っていた」そうで，観光状況については，「伊勢市ではほとんど経済効果を感じられません。賢島は違うと思いますが，伊勢の観光は伊勢参りの流れのなかで動いているので，観光への影響はあまりないのでは」との意見であった。

事前に喧伝されていた経済効果とこうした実感としての景気の落差は，調査後の報道でも伝えられている。2016年９月20日付日本経済新聞朝刊17頁「三重経済特集――伝統と革新，三重の挑戦，ポスト・サミットの観光，食・特産品で新たな飛躍」では，「一方，『サミット効果は局所的だ』という声も聞こえてくる。今夏，宿泊施設の稼働率や予約状況は伊勢，志摩，鳥羽の3地域で濃淡が表れた。あるホテルの担当者は『いいのは賢島だけ。志摩観光ホテルの一人勝ちだ』と嘆く」と報じている[16]。

２）国際メディアセンター

伊勢シティホテル出立後，レンタカーを利用して三重県庁関係者とともに伊勢志摩の関係各地を巡回した。近鉄伊勢市駅前のタイムズカーレンタル伊勢店を11時頃出発し，国道42号線を使って11時20頃に夫婦岩で有名な二見興玉神社[17]を訪れた後，同日11時50分頃，サミット開催中に「国際メディアセンター アネックス」が併設されていた三重県営サンアリーナ[18]を訪れた。ここでは，調査目的を告げることで事務担当者から詳しい聞き取りを行うことができた。「サミット中は施設がまったく使えませんでした。サミットが終わった後も，プレスの建物がまだ残っているため駐車場が使えずイベントは限定的にしか行えません。現時点で利用客という面ではかえってマイナス。報道の方に宣伝してもらったのは確かに助かったが，サミット後に目立った人の増加は見られません。長期的な効果はまだ現時点ではわからないですね」とのことであった。

プレスセンターについては，国内外へ県内の食と特産品のアピールを積極的に行ったことが各種メディアによって伝えられている。たとえば，上述した2016年９月20日付日本経済新聞朝刊17頁「三重経済特集――伝統と革新，三重の挑戦，ポスト・サミットの観光，食・特産品で新たな飛躍」は，「報道陣の拠点『国際メディアセンター』でも152品目の県産食材が提供され，海外メディアから高い評価を受けた」と報じている[19]。ただし，担当者からは遷宮との関係でとらえることも重要だとの指摘もあった。

> 伊勢観光は遷宮を中心に推移していて，遷宮から10年，次の遷宮に向けた10年と分けることができます。遷宮関連の行事がない時期の観光イベントが必要です。2012年の遷宮から4年が経ち一段落していたところで今回のサミットのお陰で話題になり，来年には2017年の菓子博覧会とよいつながりができているのは確かです。次の遷宮の行事が始まるまでつなげていきたいです。

同様の事柄は，サミット開催が決定して間もない時期，2015年６月７日付朝日新聞（名古屋）朝刊32頁「（伊勢志摩サミット　開催決定：上）観光特需よ再び，願う賢島」でも，「商店主たちが興奮するのには理由がある。大きなイベントを誘致することで志摩市に注目が集まれば，観光客の増加につながることを知っているからだ」とされ，2013年の式年遷宮をピークに観光客が大幅に減少している状況を受け，「このタ

イミングで開催が決まったサミットを，次なる観光客の呼び水にしたいと期待する商店主は多い」と報じられている。

サミット後の2015年９月16日付日本経済新聞朝刊33頁「三重経済特集――三重，世界へ光放つ，伊勢志摩サミット来年５月，英虞湾の夕景・食」においても，「サミットは世界に発信する千載一遇のチャンス」との鈴木英敬知事の考えを伝えつつ，「三重県の14年の観光客数は伊勢神宮の式年遷宮の反動もあって3,824万人と13年に比べ6.3％減った。伊勢志摩地域に限れば1,046万人と13年比で17％減。それだけにサミットを『ポスト遷宮』の一大イベントとして誘客の呼び水にしたいとの期待が膨らむ」と，インバウンド拡大への期待を念頭に，サミット効果による観光振興が明確に位置づけられている様子を報じている。

しかしながら他方で，例年観光客で賑わうゴールデンウィーク中に，警備強化の影響により観光客が伸び悩んでいたことを伝える記事が連続して掲載されている。たとえば，事前の宿泊予約状況について，2016年４月19日付朝日新聞（名古屋）朝刊27頁「鈍いGW予約，悩む観光地　警備強化が影響？　伊勢志摩サミットあと37日」や，2016年５月12日付朝日新聞（三重全県）朝刊29頁「伊勢志摩のＧＷ客数増，県平均以下　警備で旅行控えか　伊勢志摩サミットあと14日」が，観光施設の集客が軒並み減じたことを報じている。ただし，2016年５月14日付朝日新聞（三重全県）朝刊27頁「鳥羽の観光客数，連休中17％減少　サミット警備影響か」は，鳥羽市内の観光地の客数減少とは裏腹に，「サンプル調査から推計する市内の宿泊者数は７万5,487人と33％増となった。市観光課は『警備関係者の受け入れで増えた』とみている」」と報じている[20]。

このように観光の活性化と裏腹の関係にある警備の状況について，県営サンアリーナの担当者は次の様に語ってくれた。

> 今回，「見せる警備」が目指されました。セキュリティということでは非常に効果的でした。サミットに併せて監視カメラを多少増設しました。警察・警備会社が持ってきたカメラも多かったのですが，それらはサミット終了後に撤去され，現在は通常の状態に戻っています。

写真10　解体中の国際メディアセンター アネックス

（2016年８月25日筆者撮影）

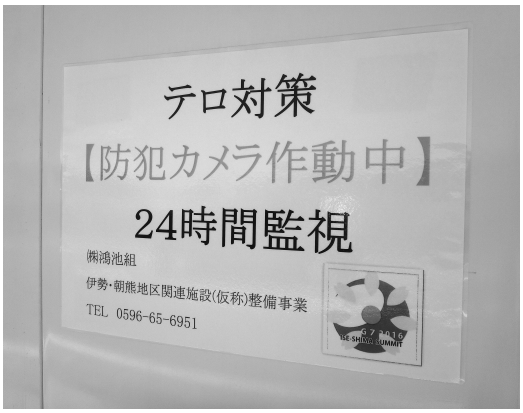

写真11　テロ警戒中の告知

（2016年８月25日筆者撮影）

この言葉を頼りに，プレスセンター周辺の探査を行うと，費用対効果が問題視[21]された国際メディアセンター アネックスがちょうど解体工事中（写真10）となっており，防犯カメラ設置の痕跡とみられる箇所や，現在も作動する防犯カメラ，テロ警戒中と書かれた張り紙（写真11）を見つけることができた。

写真12　サミット丼の広告

（2016年8月25日筆者撮影）

3）相差の状況

プレスセンターを後にして県道128号線（パールロード）[22]を使って移動し，昼食を取るためにロードサイドの店舗[23]に立ち寄った。そこでは，サミット丼なるサミットにちなんだ特別メニューの広告が残されていた（写真12）。

さらに移動し，三重県内のなかでも海女を生業とする住民がきわめて多い地区として知られる相差[24]に入った。まず，14時30頃，神明神社に到着し参拝を済ませた後，駐車場男性スタッフにサミット当時の状況を尋ねると，「サミット前後で，神明神社・石神神社の警備は特にやられていないけど，警察関係者2,000人が宿泊して賢島に通っていた」とのことであった。サミットの来客効果に訪ねると，「最初は野口みずきが験を担いで金メダルを取ってから有名になった。10年ぐらい前は凄い人出だったよ。それ以来，来客は続いているけど，サミット後にもやや増えた印象。（個人的に）サミット終了後にやってきていた長岡ナンバーの車のドライバーに尋ねたら，地元の警察官から聞いてやってきたそう。滞在した警官から噂を聞いて地方の客が来るようになっているので，その意味では宣伝効果，経済効果があったのでは」とのことであった。

こうした波及効果を狙って実際に宿泊プランも組まれていたことが報道からわかる。2016年６月24日付朝日新聞（名古屋）朝刊33頁「サミット警備，感謝の宿泊プラン　志摩市の旅館・ホテル」では，「志摩市にある約20軒の宿泊施設がサミットの警備関係者に再び訪れてもらおうと，７月から特別プランを始める」として詳細を報じている。サミット警備に参加した警察官，海上保安官を対象に，宿泊費の値引きや，特別価格のプランを設けているとのことであった。しかしながら，約一月後，2016年７月28日付朝日新聞（名古屋）朝刊38頁「サミット警備，感謝プラン中止　『一部の公務員だけ利益』指摘受け」では，人事院からの指摘があったことを受け，志摩市観光協会が旅館と協議の上，内容はそのままで警備関係の公務員だけでなく一般客も含めた感謝プランに変更したことが報じられている。

他にも，相差のサミット後の状況については調査後，2016年９月20日付日本経済新聞朝刊17頁「三重経済特集――伝統と革新，三重の挑戦，ポスト・サミットの観光，食・特産品で新たな飛躍」が，「お盆時期（８月10～18日），鳥羽市の宿泊者は前年比5.9％減。海女の町として知られる鳥羽市相差（おうさつ）は，サミット前は警備の警察関係者の宿泊で潤ったが，サミット後の客足は鈍い。『里海を創る海女の会』前会長の松本のり子さん（68）は『夏のシーズンになっても客が戻ってこない。（サミットでは）海女さんゆうのを皆に知ってもらって，それが良かったぐらいやな』と笑う」と伝えている。実地調査においても，神明神社の次に立ち寄った海女小屋は平日ということもあってか営業しておらず，周囲に人影はなく閑散としていた。

その後，県道47号線を経て，サミット参加者たちが賢島から伊勢神宮までの移動に用いた道程をたどるべく，国道167号線（第二伊勢道路）経由で伊勢二見鳥羽有料道路に入った。同乗の三重県庁関係者からは，「この道路は，鳥羽から二見伊勢に抜ける新しい道路，これを使えばすぐに伊勢インターチェンジ，イオン伊勢店近くから内宮へ向かえば最短ルートになります。サミット関係者もこの道を使用したはず」

との説明を受けた。

伊勢インターチェンジで降りて，国道23号線から15時40分頃に伊勢神宮（内宮）に到着。その後，17時20頃に伊勢神宮（内宮）を出立し，県道12号線を通ってタイムズカーレンタル伊勢店に戻り17時30頃レンタカーを返却して現地調査を終えた。

4．サミット後の観光とセキュリティに関する報道

サミット終盤およびサミット後の報道からも，これまでみてきたセキュリティと観光の相反する関係性を読み取ることができる。

たとえば，2016年５月27日付朝日新聞（名古屋）朝刊31頁「VIPが来た　夫人にハグされ涙／通勤へとへと／冥土の土産に　伊勢志摩サミット開幕」では，「21日から封鎖状態が続く」賢島の様子を，「住民も出入りが制限されるなど，不便な生活を送る一方，『めったにない経験』を楽しもうとする人たちもいる」として，島民や島に通勤する人の声を交えながら報じている。また，「華麗なる和ランチ，松阪牛握りずし」と小見出しを付けて，「サミットは，ホスト国による食のおもてなしも注目点」として，志摩観光ホテルで供された数々の飲食物を紹介している。

サミット閉会後の報道でも，セキュリティと観光は主要な関心事として意識されている。2016年５月29日付朝日新聞（三重全県）朝刊23頁「規制解け日常へ　賢島，観光施設の休業続く　伊勢志摩サミット」は，サミット閉幕後の28日，立ち入れ規制が解除された後の様子を，観光客の増加が見込まれていたものの残務処理などのため「島内の主要な観光施設の休業が続いていて，期待された観光客の姿はこの日もまばら。街にふだんの光景が戻るまでには，もう少し時間がかかりそうだ」と伝えている。具体的に，６月７日の志摩観光ホテルの「リニューアルオープンに向けて，ホテルを取り囲むフェンスを撤去する作業などが進む」様子も写真付で報じている。サミット開催中は，コンビニ店で警察官による「栄養補助食品特需」があった一方で，志摩市内の居酒屋で「非番の警察官がよく訪れたものの，定食が主で酒の注文はなかった」「観光客は来ないし，警察官も数は知れている。売り上げはさっぱり」との店主の声も掲載している。

2016年５月29日付朝日新聞（名古屋）朝刊31頁「終幕，いつもの街に　賢島，柵撤去し封鎖解除　伊勢志摩サミット」でも，「『前例のない警備態勢』（警察関係者）は解除され，大きな混乱なく終えたことで，警察には安堵（あんど）感が漂った」と伝えるとともに，警備の状況を洞爺湖サミットと比較しながら以下のように解説している。

> 警察庁によると，三重・愛知では全国からの応援警察官を含め２万３千人が警備にあたった。全国の駅や繁華街など「ソフトターゲット」対策の約７万人も含めると，日本でのサミットでは過去最大規模だった。
>
> 小型無人機「ドローン」が上空から侵入するのを防ぐため，「迎撃用」のドローンも配備。しかし，出動機会はなく，懸念されたサイバーテロも「把握していない」（警察庁）という。
>
> ■大規模デモなく，逮捕者数もゼロ
>
> 北海道洞爺湖サミット（2008年）では，サミットに反対する国内外の3千人が札幌市でデモを行い，逮捕者も出た。愛知，三重両県警によると今回のデモは計11件。いずれも小規模で，逮捕者は出なかった。警察関係者は「デモを減らそうと警察が何かしたわけではない。右翼の活動はおそらく洞爺湖よりも活発だった」と明かす。伊勢神宮周辺や名古屋市内などでは，多くの住民が首脳を見ようと沿道に立った。排除ではなく，警察官が立ち位置を誘導するケースもあった。「不審者をあぶり出すため，

積極的に声をかけ，できるだけ丁寧に対応した」と関係者は話す。

このように，三重県と全国のソフトターゲットで総数９万３千の警官動員という「過去最大規模」[25]となった警備態勢が奏功し，デモも少数で逮捕者を出すことなくサミットを無事に終えることができたことが成果として述べられている。

サミット後の観光については，2016年９月20日付日本経済新聞朝刊17頁「三重経済特集――伝統と革新，三重の挑戦，ポスト・サミットの観光，食・特産品で新たな飛躍」が詳細に報じている。「ポスト・サミットの観光振興」の現状として，観光客で盛況であった志摩観光ホテルを筆頭に賢島周辺と伊勢神宮の様相を詳しく伝える反面，「サミット効果は局所的」との声を紹介しつつ，「課題は，現在のまだら模様の『サミット効果』をいかに広げ，その効果を持続させるかだ」として，鈴木英敬知事の「各国首脳を魅了した食をキーワードに観光を一層盛り上げていきたい」「サミットのレガシー（遺産）を三重の未来に生かしていきたい」との発言を引いている。そして，県「みえ食旅パスポート」，「国際会議などのMICE（マイス）やゴルフツーリズムの誘致」，近鉄賢島駅舎「サミット記念館」，近鉄グループホールディングスによる「東京などでテレビCMを強化」などの方策を紹介している。

Ⅴ　考察と結論

本稿では，メガイベントとしての伊勢志摩サミットに関わるセキュリティと観光の関係性に焦点を合わせて，伊勢志摩地域での聞き取りと主要新聞の報道をもとにサミット前後の状況を報告してきた。

近年開催されるメガイベントとしてのサミットでは，セキュリティ分野の対策としての遠隔地開催と，当該地域の観光推進が対になっていることが知られている。三重県が策定している「ポストサミットの取組」のなかでも，当初から観光新興および安全・安心対策が主要なものとして挙げられていたのだが[26]，伊勢志摩サミットの報道で特に強調されていたセキュリティと観光への大きな関心は，「セキュリティ面とリゾート性」を考慮したリトリート方式そのものに内在していたといえる。

この「リゾート性」の強調はリトリートのもつ場所性に根ざしており，観光振興と経済効果への期待と密接に関わっている。セキュリティを確保するための遠隔地開催が，候補地における観光推進への期待を鼓舞し続けているといえるだろう。こうした「リトリート方式」の有効性という観点からいえば，志摩観光ホテルと賢島の事例はまさに成功例になったと考えられる。伝統と格式を備えてはいるものの一部施設の老朽化のため客足が遠のきつつあった志摩観光ホテルにとって，サミット会場として指定されたことで当初の改築規模を越えた改修が可能となり，サミット開催中の数々のエピソードの舞台となった洗練された建造環境が今後の観光資源となったのは，確かにサミットの「レガシー」以外の何物でもない。

賢島を超えた空間スケールでいえば，三重県全域において，サミットのレガシーを生かしたポスト・サミットへ向けた取組[27]として，三重の食を中心とした観光推進に重点が置かれていた。今回のサミットを通じて可能となったさまざまなアクターの連携が，観光を推進するうえでの「サミット効果」として今後も引き継がれていくことであろう。セキュリティ方面の施策についても，ポスト・サミットの取組として警察と市民との連携を保っていこうとの目標が掲げられていた。県民の連携によって何事もなく無事に終了することが可能となり安全・安心が保たれた実績がレガシーとなって，観光推進と同様，今後の施策を支える根拠となっていくことになろう。

特に今回の調査で明らかになったのは，観光とセキュリティが相反する関係を時に含みながらも，ポスト・サミットのレガシーのひとつと

して融合している状況である。サミットの主要会場となった志摩観光ホテルにおいては，スタッフへの聞き取りから，事物面での明らかな痕跡は，リニューアルに合わせて増設されたセキュリティカメラや，消化器の個別承認を示す番号ぐらいのものであるにもかかわらず，サミット関連の空間およびセキュリティ維持に関する語りが，たしかな観光資源として捉えられており，呼びもののひとつとなっていることを明確に把握することができた。セキュリティそのものではなく，セキュリティを目指した「見せる警備」の過剰さについての語りが，観光資源としてのサミットの「レガシー」の重要な一要素となっていることが指摘できるのである。

本論で述べたように，新聞記事を参照すればより詳しい警備状況をたどることができるとしても，実際に現場に立ち会ったスタッフから当時の様子についての説明を受けながら，サミット警備を追体験することがある種の呼び物になっていたのである。かつて行われた未曾有の警備の様子が「語り草」となっており，それらに耳を傾けることを来訪者は喜ぶ。古戦場跡地に訪れる観光になぞられうるような感覚を館内見学ツアー参加者たちが抱くからであろう。

他方，こうしたかたちでのレガシーは，志摩観光ホテルと賢島以外の場所では限定的なものであったとの見解も各方面から寄せられていた。聞き取りを行ったほぼすべての人から，記憶に強く刻まれた「見せる警備」の様子を聞くことができたのだが，それは期間限定の一過性のものであり，賢島周辺以外では，体感的な印象ということで言えば，セキュリティも観光もサミット前後で変化はないとの意見が大半であった。たとえば，内宮外宮でも，サミットとは関わりなく以前から専属の警備員が配置され警備が徹底されていたわけであるから，セキュリティに関しては以前の状況に戻っただけだともいえる。

さらに，注意したいのは，聞き取りと報道記事から，「見せる警備」の負の側面も露わになったことだ。現地調査では地元住民の一部から，「営業の足かせになった」「売り上げに結びつかない」「やり過ぎ」といった声が聞かれた。警備の過剰さが最高度でも，体感されたセキュリティが同じとは限らない。過剰な警備が住民に別の不安をもたらしていたことは看過すべきではないだろう。

この過剰さの演出の背景として，報道記事からは，メガイベントのセキュリティを担保することはもちろん，その後のメガイベントのための予行演習としての側面を読み取ることができる。都道府県警察間の対抗意識，あるいは，市街戦も想定されていたように大規模な軍事演習的な側面があったなかで，結果的に，いわば「晴れの舞台」での警察，海上保安庁，自衛隊の役割分担意識の涵養を促す絶好の機会となったと思われる。

「警備に聖域はない」「見せる警備」の発想は，過剰であることが抑止力になるとの考えを裏付けるものであるが，現にレガシーとなっているのだから，過剰な警備が適切であったかどうかは問われることはない。警備態勢の規模と予算がセキュリティ確保のために適切なのか本当に必要かどうかはもはや判断しようがない。すでにレガシーとなっているのだから警備の過剰さが適切であったかどうかは公には問われず，今後どの程度の過剰さが本当に必要なのか外部から検証することは難しい。

治安対策の面においても，「ポスト・サミット」でも引き続き維持していこうという機運が生まれたことは確かであり，新聞報道にもあった「ラグビー W杯・東京五輪への試金石」「大きな舞台に向けた試金石」として成功した伊勢志摩の事例が，今後も繰り返し言及されることが予想される。国外のテロ事件を受けて国内でも大規模なテロが起こりうることが警備の過剰さの根拠になっているのだとすれば，毎回「“史上最高レベル”の警備」[28]となっていくのだろうか。不測の事態が起こらなければ成功したと判断されレガシーとなる。その反面，仮に国内で何らかの事件・事故が起こった場合，治安対策がどれほど強化されるのか懸念も残るの

ではないだろうか。

ラグビー・ワールドカップを本年，東京五輪・パラリンピックを翌年に控えた現代日本において，都市の変容を多角的に明らかにする際，観光振興とセキュリティの強化という観点はますます重要性を増していくことは間違いない。本稿では現況を報告することを優先したことにより，中長期的にみた場合に，賢島駅２階に開設された「伊勢志摩サミット記念館　サミエール」[29]を含めて観光とセキュリティにどのような影響が続くのかは明言できない。「ポスト・サミットの観光振興」に結びついていくよう具体的な方策が展開されていくなかで，多岐にわたる「サミットのレガシー」がどのように継承されていくのか，引き続き今後の動向を注視していく必要があるだろう。

付記

本稿の概要については，2017年３月29日に日本地理学会2017年春季学術大会（於 筑波大学）に合わせて開催された，都市の社会・文化地理学研究グループ第８回研究会（テーマ：東京オリンピックに向けて考える）において，「伊勢志摩地域におけるサミット後の観光とセキュリティ」と題して発表した。調査および執筆を行うに当たり，平成28年度東洋大学井上円了記念研究助成（研究代表：荒又美陽），平成29年度科学研究費補助金「ポスト成長期のオリンピックに関する地理学的研究――メガイベントを通じた都市変容分析」基盤研究（B）研究課題番号：17H02432（研究代表者：荒又美陽），流通経済大学平成30年度個人研究費を利用した。作図については有限会社地域アシスト事務所に依頼した。現地調査において便宜を図っていただいた多くの匿名の方々に御礼申し上げたい。

注

1）この点に関する事例研究として，2016年リオデジャネイロ五輪におけるフェベーラ対策に関する調査報告の結論で半澤（2018: 308-309）が提唱した視座は重要である。リオデジャネイロ市の都市開発に伴う受益者層以外の住民への排除的政策は，オリンピックの帰結というよりも長年に亘って存在してきた「開催地における既存の政治・経済力学が極端なかたちで露呈したと解釈できる余地がある」とし，「オリンピックというよりメガイベントは，既存の政治・経済力学を質的にも量的も強化して地域に影響を与える触媒としての役割を果たしている。言い換えるとメガイベントは，鑿そのものではなくすでにして社会と地域に彫琢されていた造形の陰影を鮮やかに照らし出す強い光源，もしくは音源ではなく社会と地域に伏在していた通奏低音を表層へと浮かび上がらせる役割を果たす増幅器」と表現している。そして，2020年東京五輪に伴う負の側面を分析していく際にも，こうした視座を念頭において「社会や地域の有り様にも目を向けるべき」であり，「東京そして日本の社会と地域が潜在的に抱えている課題が露わにされるまたとない機会」だと主張している。

2）①外務省「G7/G8　首脳会議・外相会議」http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/index.html
②外務省「過去のサミット一覧表」http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/table/index.html（最終閲覧日：2017年11月22日）

3）外務省「G7伊勢志摩サミット」http://www.mofa.go.jp/mofaj/ms/is_s/page3_001697.html（最終閲覧日：2016年10月31日）

4）産経ニュース「【伊勢志摩サミット】“史上最高レベル”の警備　歓迎と緊張の伊勢志摩…陸・海・空それぞれの表情は 『これぐらいでなければテロ防げぬ』」http://www.sankei.com/politics/news/160526/plt1605260051-n1.html（最終閲覧日：2017年11月22日）

5）高瀬（2015）による「サミットの開催地」の説明によれば，1999年のジェノバサミットが反グローバリズム運動による抗議によって混乱したため，2000年の九州・沖縄サミットがセキュリティを考慮して遠隔地で実施されたことが，実質的にこの方式の初回の試みであったという。

6）三重県民会議「伊勢志摩サミット」http://www.pref.mie.lg.jp/miesummit/contents/3-2_post.html

7）大半の会話について録音は行わなかったため，発話内容は一言一句を再現したものではなく，筆者が大意を要約したものである。プライバシー保護のため発話者の詳細については記載を控えた。

8）「伊勢観光への影響は少ない。実感として景気の落差がある。よいのは賢島だけ」といった語りは，同伴した三重県庁関係者からも聞くことができた。他にもたとえば，８月25日（水）１時～１時30分に訪れた伊勢市駅周辺に店を構えるバーの店員は，「経済的効果はないです。サミット前は売り

上げが減った。ホテル関係者はよかっただろうけど飲食店には打撃。いいことがない」と話してくれた。ただし，「昼間来た○○県警の警官が夜に複数で飲みに来た。警官たちはテキーラをサクサク飲んでいた」との語りも得られたことなどから，警備関係者による飲食需要の恩恵も一定程度あったことが窺える。

9）志摩観光ホテルhttp://www.miyakohotels.ne.jp/shima/（最終閲覧日：2016年10月３日）では，「国際的リゾートホテルとして　新たな歩みをはじめます　2016年６月７日リニューアルオープン」として，数々の見所が挙げられていた。

10）志摩観光ホテル「伊勢志摩サミット開催記念プラン」http://www.miyakohotels.ne.jp/shima/ise-shima_summit_plan/index.html/（最終閲覧日：2016年３月21日）。2017年９月11日現在では削除されているが，リニューアルオープン以降「伊勢志摩サミット開催記念プラン」として以下の四つの特別プランが用意されていた。①「伊勢志摩サミット開催記念宿泊プラン【プレミアムプラン】」（１日１組限定）では，ザ クラシック「ロイヤルスイートルーム」利用で二人２泊５食80万円（１泊２食50万円），ザ ベイスイート「ロイヤルスイートルーム」利用で二人２泊５食100万円（１泊２食60万円）。②「伊勢志摩サミット開催記念宿泊プラン【サミットテーブル利用プラン】」（ディナー・会席それぞれ１日１組限定）では，ザ クラシック客室が一人１泊２食66,000円～，ザ ベイスイート客室が一人１泊２食79,000円～。③「伊勢志摩サミット開催記念宿泊プラン【スタンダードプラン】」では，ザ クラシックが一人１泊２食56,000円～，ザ ベイスイートが一人１泊２食69,000円～。④「伊勢志摩サミット開催記念お食事プラン」では，伊勢志摩サミットテーブル ディナープランが一人￥48,000，伊勢志摩サミットテーブル　ランチプランが一人￥30,000となっていた。

11）伊勢志摩ホテル「シマカンの愉しみ方」http://www.miyakohotels.ne.jp/shima/facilities/（最終閲覧日：2017年９月４日）には，ザ ベイスイート５階の「ゲストラウンジ」について，「首脳たちも眺めながら会議をした場所で，志摩時間を堪能いただけるラウンジ」，そこから室外へと続いていく「屋上庭園」については，「G7伊勢志摩サミットで首脳たちも眺めた英虞湾の景色。『日本の原風景』と紹介された絶景をパノラマサイズでお楽しみください」との説明がある。

12）パンフレット・リーフレットは以下からダウンロード可能である。外務省『G7 伊勢志摩サミット 2016』http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/dpr/page23_001613.html（最終閲覧日：2017年10月10日）。表紙扉の写真については以下も参照。外務省「G7 伊勢志摩サミットhttp://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/ise-shima16/（最終閲覧日：2016年10月３日）

13）志摩観光ホテル「館内見学ツアー（宿泊者限定）」http://www.miyakohotels.ne.jp/shima/（最終閲覧日：2016年３月21日）では，「サミットで首脳会議が開催された場所や，記念撮影スポットなどとともに志摩観光ホテルの歴史や館内アート等をご案内いたします。（ご案内場所は日によって異なります。）」と紹介されていた。現在は，「約40分のヒストリカルな体験」「ホテルの歴史や，伊勢志摩サミットの会場，画家藤田嗣治氏の大作『野あそび』などをホテルスタッフがご案内いたします」と記されているhttps://www.miyakohotels.ne.jp/shima/130479/index.html（最終閲覧日：2018年２月８日）.

14）サミット開催地に因んだ場所演出の例として，志摩観光ホテル「MICE」http://www.miyakohotels.ne.jp/shima/mice/（最終閲覧日：2017年９月４日）では，「サミットで各国首脳が時間を共有した空間で，会社の重要事項を決めるミーティングを行う。あるいは新商品の発表会や商談会，さらには表彰式などを開催するといった，様々なビジネスユースにも幅広く対応します」，あるいは，「ザ クラシックの宴会場『真珠の間』では，G7アウチリーチ招待国首脳会合とワーキングランチが開催されました。世界の首脳たちが活発に機論された会場で，会社の重要事項を決定するなど，ビジネスシーンをサポートいたします」など，MICE施設の機能性のみならず，他では代えがたい場所性が強調されている。「G7伊勢志摩サミット 集合写真」についても，「首脳たちが集合写真を撮った場所で，MICE旅行の記念写真はいかがでしょうか。ザ ベイスイート（宿泊者専用）と，ザ クラシックの庭園の二箇所にございます」といった紹介がなされている。

15）このほかにも，「安倍首相をはじめとした日本勢は，志摩観光ホテルではなく，同じく近鉄系列の賢島宝園苑を貸し切りにして滞在していた」ことや，「各国別に各県警が担当をしていました。志摩観光ホテルから直接，伊勢神宮に各国で異なる隊列を組んで向かいました。フランスは救急車も同伴していた」ことなどの談話が得られた。

16）以下も参照されたい。NIKKEI STYLE　トラベル「伊勢志摩サミット１年，観光効果は『賢島の一人勝ち』」https://style.nikkei.com/article/DGXMZO16826970V20C17A5000000?channel=DF140920160941（最終閲覧日：2017年10月21日）

17）三重県観光連盟「夫婦岩の観光スポット情報」https://www.kankomie.or.jp/spot/detail_2231.html（最終閲覧日：2016年10月３日）。なお，サミット前後の状況について尋ねた同神社の販売所女性スタッ

フによれば，「宿はすべて警察が泊まっていて，日中は出勤していた。警官が朝，ジョギングしていたのが見られました。一般の人は入れなかったが，サミット後は客足が戻った。以前よりも多少増えた印象」とのことであった。

18）三重県営サンアリーナhttp://sun-arena.or.jp/（最終閲覧日：2016年10月３日）

19）実際，調査に同行してもらった三重県庁関係者とのあいだで，「プレス関係者には松阪牛などが振る舞われた。自分も中に入りたかったぐらい」との談笑があった。

20）他方，サミット期間中の宿泊大量キャンセルが問題となった。2016年６月11日付朝日新聞朝刊（三重全県）・１地方21頁「大量キャンセル，県が対応策検討　サミット協力の宿へ」では，「関係者全体の予約は想定していた約50万泊の８割程度」であり，「熊本地震やオバマ米大統領の広島訪問などで警備関係者の約２万泊分でキャンセルが発生」したことを受け，県が「今後の観光客誘致などで対応策を検討」していることが報じられている。

21）BuzzFeed Japan News「サミットで３日間だけ使用の建物に28億円＋解体費３億円　外務省『安いと信じる』」https://www.buzzfeed.com/kotahatachi/summit-media-center?utm_term=.bmkolzZeE#.iqdmq0yOP（最終閲覧日：2017年３月10日）

22）伊勢志摩観光コンベンション機構公式サイト（伊勢志摩観光ナビ）「パールロード」https://www.iseshima-kanko.jp/spot/1220/（最終閲覧日：2018年６月７日）。沿道のみどころについては以下を参照。有限会社ノア「パールロード鳥羽展望台　食国蔵王」http://www.toba-tenboudai.co.jp/（最終閲覧日：2016年10月3日）

23）鳥羽海鮮市場 海の駅 黒潮〈パールロード店〉http://www.uminoeki-kuroshio.com/kuroshio.html（最終閲覧日：2018年６月７日）

24）伊勢志摩/南鳥羽・相差民宿組合http://www.oosatsu.net/midokoro/ishigami/（最終閲覧日：2016年10月３日）

25）サミット開催中の警備状況に関する一報告として以下も参照。イーアイデムの地元メディア「ジモコロ」「伊勢志摩サミット開催中の警備ってどれくらい厳重だった？ 現地で見てきた」http://www.e-aidem.com/ch/jimocoro/entry/yoppy12（最終閲覧日：2016年10月３日）

26）三重県「ポストサミットの取組」の「平成28年度の個別事業概要（平成28年度当初予算時点）」http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000669041.pdf（最終閲覧日：2017年11月13日）では，「①人と事業を呼びこむ」として，【MICE誘致】【インバウンド】【食の産業振興】【国際戦略】，「②成果を発展させる」として，【安全・安心】【サミットの聖地】【環境】，そして，「③次世代に継承する」として，【次世代育成】【女性の活躍】」が挙げられている。このうち【MICE誘致】【インバウンド】【食の産業振興】は観光そのものに関わる取組であり，【安全・安心】はセキュリティ政策に関わる取組である。

27）前掲26）。【安全・安心】方面の事業目的として，「『伊勢志摩サミット』の開催による県民の皆さんの安全意識の高まりを引き継ぐとともに，『協創』による安全で安心なまちづくりを着実に進めていくため，『犯罪から県民を守るアクションプログラム（仮称）』の策定を進める」としている。

28）前掲４）。

29）伊勢志摩観光コンベンション機構公式サイト（伊勢志摩観光ナビ）「伊勢志摩サミット記念館 サミエール」https://www.iseshima-kanko.jp/feature/iseshima-summit（最終閲覧日：2017年８月30日）。伊勢志摩サミットをモチーフとした観光案内としてたとえば以下を参照。伊勢志摩観光コンベンション機構公式サイト（伊勢志摩観光ナビ）「伊勢志摩をめぐるモデルコース　サミット開催地，賢島からスタート！！ 伊 勢 志 摩」https://www.iseshima-kanko.jp/course/2236/（最終閲覧日：2017年９月13日）

文献

阿部潔 2016. 東京オリンピック研究序説――「2020年の日本」の社会学. 関西学院大学社会学部紀要 123: 65-83.

荒又美陽・大城直樹・山口晋・小泉諒・杉山和明 2018. 東京オリンピックに向けて考える――グローバル化，都市・地域開発，セキュリティ．E-journal GEO 13（1）: 273-295. https://doi.org/10.4157/ejgeo.13.273

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局 2017a. 伊勢志摩サミットの総括とポストサミット．キャリア研究センター紀要・年報（3）: 1-4.

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局 2017b. 歴史的イベントから１年 レガシー最大限生かし持続的発展に繋げる――伊勢志摩サミットの総括とポストサミット．地方行政（10727）: 16-19.

警察学論集 2016. 警察政策フォーラム 変容する国際テロ情勢への対応――「伊勢志摩サミット」に向けて. 警察学論集 69（1）.

月刊交通 2016. 特集 伊勢志摩サミット及び関係閣僚会合における交通対策. 月刊交通 47（8）.

新聞研究 2016. 特集 伊勢志摩サミットと新聞報道. 新聞研究（781）.

鈴木直文 2015. 図書紹介：Jules Boykoff著『Celebration Capitalism and the Olympic Games』. 一橋大学スポーツ研究 34: 60-70.

高瀬淳一 2015.『サミットがわかれば世界が読める』名

古屋外国語大学出版会.
治安フォーラム 2017. 特集 伊勢志摩サミットと治安. 治安フォーラム 23 (1).
橋爪孝介 2016. 伊勢志摩サミットにおける警備態勢の時空間展開. 地理空間学会ニューズレター（第 9 回大会発表要旨号）27: 17.
半澤誠司 2018. 誰のためのリオデジャネイロ五輪であったか？ E-Journal GEO 13 (1): 296–311. https://doi.org/10.4157/ejgeo.13.296
放送技術 2016. 特集「伊勢志摩サミット」の中継対応. 放送技術 69 (8).
山本敦久 2017. オリンピック, 祝賀資本主義, アクティヴィズム. 田中東子・山本敦久・安藤丈将編著『出来事から学ぶカルチュラル・スタディーズ』ナカニシヤ出版.
Armstrong, G., Giulianotti, R. and Hobbs, D. 2016. *Policing the 2012 London Olympics: Legacy and Social Exclusion*. Routledge.
Bennett, C.J. and Haggerty, K. eds. 2011. *Security Games: Surveillance and Control at Mega-Events*. Routledge.
Boykoff, J. 2014. *Celebration Capitalism and the Olympic Games*. Routledge.
Gold, J. R. and Gold M. M. 2016. *Olympic Cities: City Agendas, Planning, and the World's Games, 1896–2020, 3rd ed*. Routledge.
Sugiyama, K. 2018. Development of new "safety and security" measures for the Tokyo Olympic & Paralympic Games and the transformation of public space. Paper presented at *The 2018 International Geographical Union (IGU) Rregional Conference*, Quebec, Canada, August 7, 2018.
Whelan, C. 2014. Surveillance, security and sporting mega events: toward a research agenda on the organisation of security networks. *Surveillance & Society* 11 (4): 392-404.